

令和2年度 茗溪学園中学校高等学校 学校評価（重点育成目標）

学校評価アンケートとして教職員、中学1年～高校2年の生徒、保護者を対象に令和3年3月実施した調査（「重点教育目標」に関する調査）について報告する。

重点育成目標 教育理念・教育目標をもとに実現をめざす教育課程の13の重点育成目標

探究	不思議に思ったこと知りたくなったことをひとりで調べることができる
協力	友達と協力してものごとを成しとげることができる
行動	言われる前に自分から積極的に行動することができる
創造	良いアイデアを考えたり、思いついたことを形にしようとしたりすることができる
表現	考えたことを伝わりやすい言葉にしてみたり、わかりやすい伝え方を考えやってみたりすることができる
多様性の理解	正しいと思うことや大切だと思うことは人によって様々なのが自然だと考え、違っていた時にその理由を考えたり相手の話を聞いたりすることができる
省察	できごとの後にその経験を振り返ったり、自分の変化を言葉にしたりすることができる
好奇心	新しいことにワクワクしたり、もっと深く知りたいと思ったりしたことを自ら調べることができる
思考力	行動する前にどうすればうまく目的をかなえられるか考えてから行動することができる
体力	体力を高めようと考え行動することができる
耐力	つらいことにも耐えて目的を達成することができる
自律	言われたとおりにやるだけでなく、自分の生活リズムを考えて自分でコントロールして生活することができる
共感	他の人がどのような気持ちなのかを考えて言葉にしたり行動したりすることができる

1 教職員による自己評価

① 重点育成目標のうち、授業・学年学級指導・課外活動等での1年間に力を入れて指導した（指導方法を工夫した、意識的に呼びかけた等）項目（複数選択可）

探究	54%	好奇心	44%
協力	66%	思考力	74%
行動	46%	体力	14%
創造	34%	耐力	24%
表現	68%	自律	68%
多様性理解	52%	共感	38%
省察	58%		

② 重点目標毎に担当する生徒がどのように変化したか。

◎：とても、たいへん      ○：おおむね、だいたい  
△：それほど、あまり      ×：全然、まったく

%	◎	○	△	×	%	◎	○	△	×
探究	8	66	26	0	好奇心	16	60	24	0
協力	28	62	10	0	思考力	8	72	20	0
行動	10	46	44	0	体力	8	34	52	6
創造	10	62	28	0	耐力	12	54	32	2
表現	18	64	18	0	自律	12	58	30	0
多様性理解	14	56	28	2	共感	12	62	26	0
省察	20	54	26	0					

2 保護者による評価

重点育成目標に関する1年間のわが子の変化はどうであったか。

◎：とても、たいへん      ○：おおむね、だいたい  
△：それほど、あまり      ×：全然、まったく

%	◎	○	△	×	%	◎	○	△	×
探究	17	53	27	3	好奇心	17	45	34	4
協力	17	53	26	4	思考力	13	55	28	4
行動	19	49	28	5	体力	24	35	33	9
創造	15	47	34	5	耐力	20	48	28	4
表現	13	50	31	5	自律	20	47	25	9
多様性理解	18	58	22	2	共感	18	61	19	2
省察	17	50	29	3					

### 3 生徒による自己評価

重点育成目標に関する1年間の自分自身の変化はどうであったか。

◎：とても、たいへん      ○：おおむね、だいたい  
△：それほど、あまり      ×：全然、まったく

#### 中学1年（45回生）

％	◎	○	△	×	％	◎	○	△	×
探究	47	45	8	0	好奇心	61	34	5	0
協力	57	35	7	0	思考力	53	43	4	0
行動	40	44	15	0	体力	54	29	15	0
創造	48	42	10	0	耐力	55	35	10	0
表現	52	40	7	0	自律	47	38	14	0
多様性理解	59	37	4	0	共感	60	36	3	0
省察	51	39	9	0					

#### 中学2年（44回生）

％	◎	○	△	×	％	◎	○	△	×
探究	32	55	10	0	好奇心	48	42	9	0
協力	47	40	12	0	思考力	42	48	9	0
行動	32	55	12	0	体力	40	38	16	0
創造	34	53	12	0	耐力	40	46	14	0
表現	43	48	9	0	自律	35	51	12	0
多様性理解	49	46	3	0	共感	52	41	7	0
省察	40	49	9	0					

#### 中学3年（43回生）

％	◎	○	△	×	％	◎	○	△	×
探究	39	48	10	0	好奇心	55	36	7	0
協力	53	40	4	0	思考力	46	44	9	0
行動	41	45	11	0	体力	48	27	21	0
創造	34	55	9	0	耐力	47	41	10	0
表現	42	49	6	0	自律	40	49	10	0
多様性理解	55	41	2	0	共感	55	40	4	0
省察	44	49	5	0					

#### 高校1年（42回生）

％	◎	○	△	×	％	◎	○	△	×
探究	34	51	13	0	好奇心	40	48	10	0
協力	39	43	15	0	思考力	41	48	8	0
行動	39	45	13	0	体力	36	39	18	0
創造	34	50	12	0	耐力	40	46	11	0
表現	38	50	10	0	自律	36	45	14	0
多様性理解	52	43	4	0	共感	50	43	5	0
省察	39	49	9	0					

#### 高校2年（41回生）

％	◎	○	△	×	％	◎	○	△	×
探究	44	49	5	0	好奇心	48	41	9	0
協力	44	43	12	0	思考力	44	45	10	0
行動	37	54	8	0	体力	39	35	20	0
創造	40	47	11	0	耐力	41	42	15	0
表現	41	47	10	0	自律	36	47	14	0
多様性理解	54	40	5	0	共感	39	35	20	0
省察	44	47	7	0					

### 4 令和2年度評価

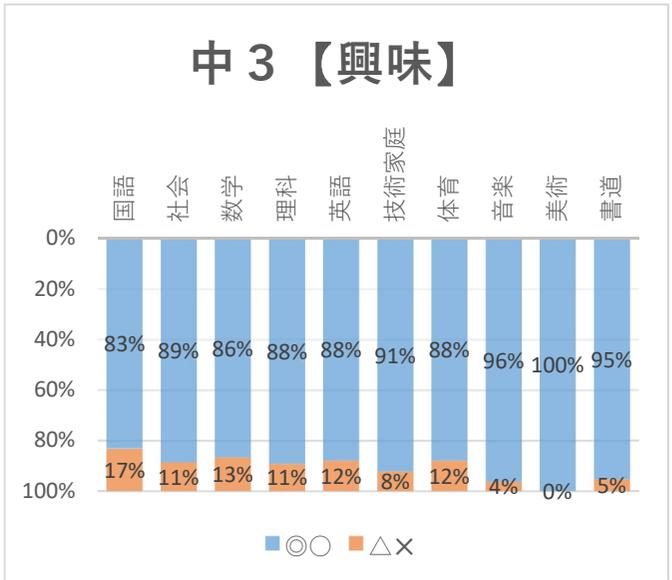
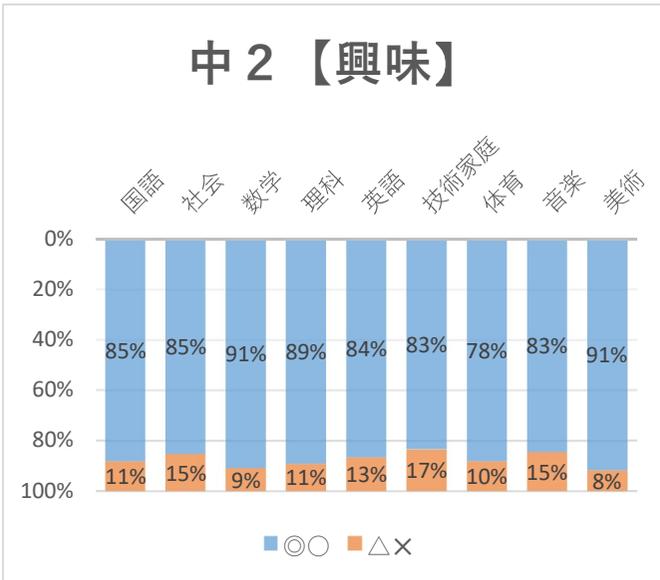
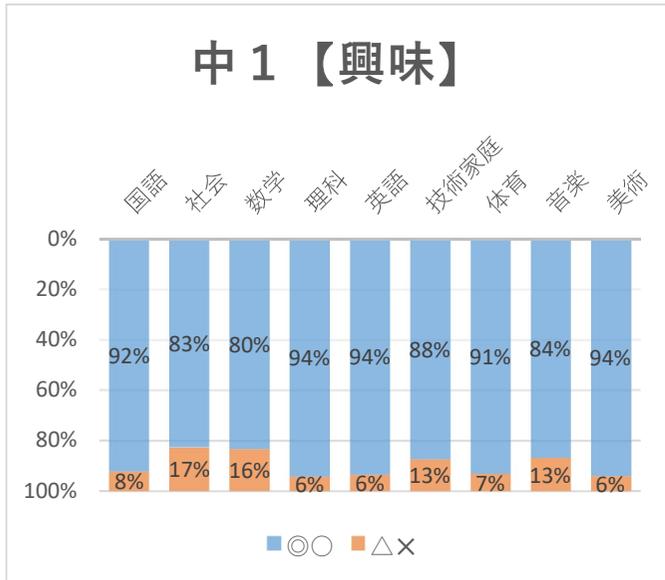
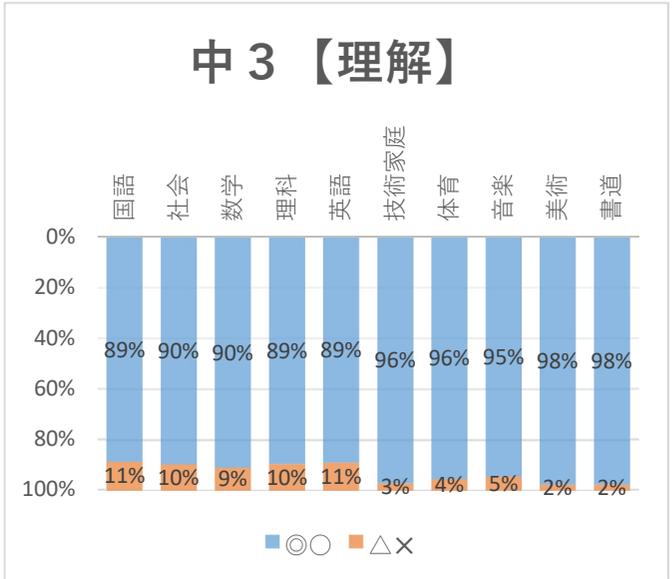
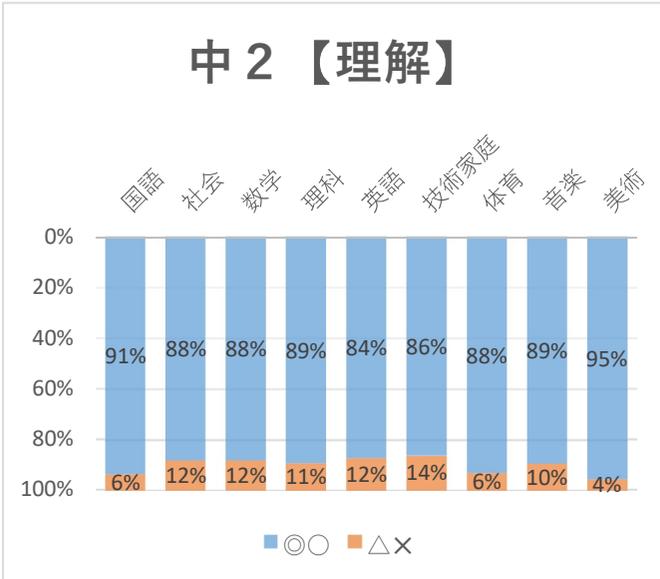
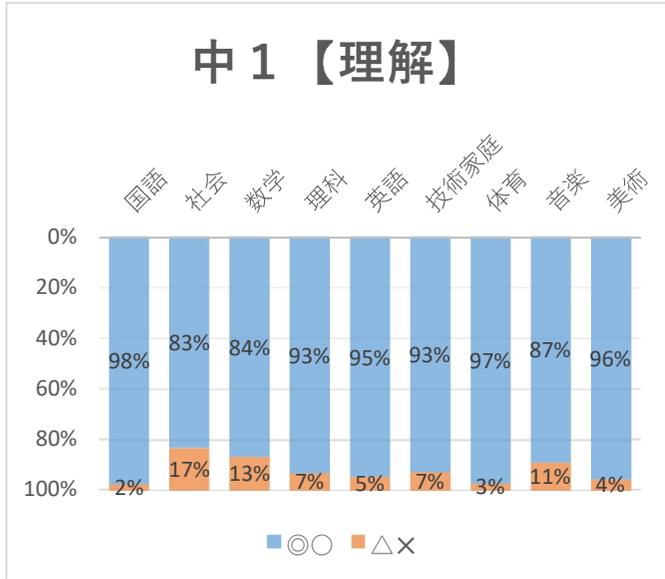
令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のための緊急事態宣言に伴う臨時休校で始まり、急遽オンライン授業態勢をつくり、また学校再開時の特別態勢に注力せざるを得なかったため、重点育成目標を学校教育活動の中心に据える合意確認を行うことが困難であった。それが「教職員による自己評価」の①の「意図した取り組み」項目選択の低さに表れている。本来は100%に近いものであるべきである。ただ、ほとんどの項目で「とても・おおむね意識して指導した」が70%以上に及び、非常事態の1年間にしては評価できる。比較的低い値を示した項目が「行動」と「体力」であり、オンライン授業や短縮授業、部活動停止等の1年間を反映している。保護者からの回答は自宅ですらのこどもを1年間観察してきた評価であるが、生徒の回答は「全然、まったく」がすべての項目で0%であると対称的に10%未満の選択がある。特に「自律」に関しては「全然、まったく」が8.6%と高く、生徒の回答の「それほど、あまり」が親の目から見ると「全然、まったく」と評価されているのではないかと推測する。ただ、保護者からも「とても、おおむね」の項目は60%以上は選択され、学校の取り組みによる重点育成目標の生徒への変化は概ね肯定的に評価されている。体力に関してのみ二極化が見られるが、コロナ禍の影響と考えられる。

生徒からの回答は学年によって若干の違いはあるものの、自らの変化を肯定的にとらえている生徒が多いとみることができる。特に「全然、まったく」という強い否定をする生徒が皆無であったことが印象的である。

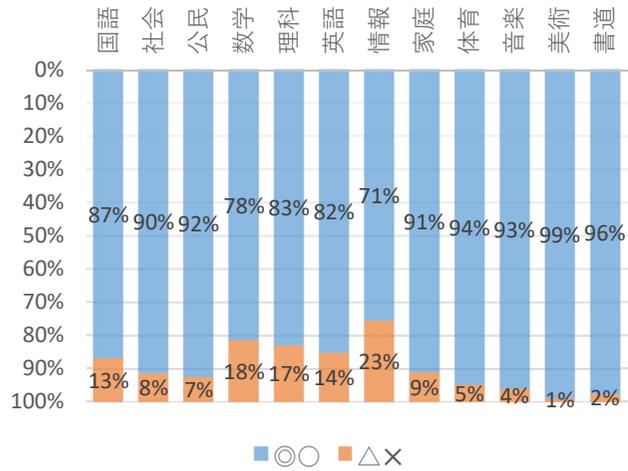
令和2年度 茗溪学園中学校高等学校 学校評価（生徒による授業に関する評価）

学校評価アンケートとして令和3年3月に中学1年～高校2年の生徒対象に実施した調査（「授業に関する調査」）について

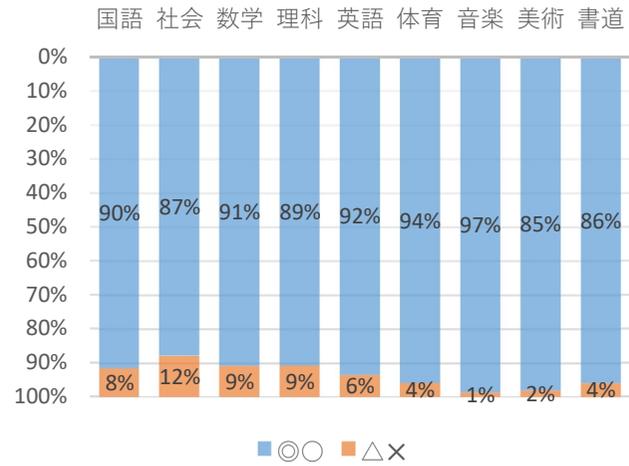
教科ごとに【理解】と【興味・関心】に関する質問項目に対する肯定的な評価（◎◎）と否定的な評価（△×）の割合を棒グラフで示したものである。



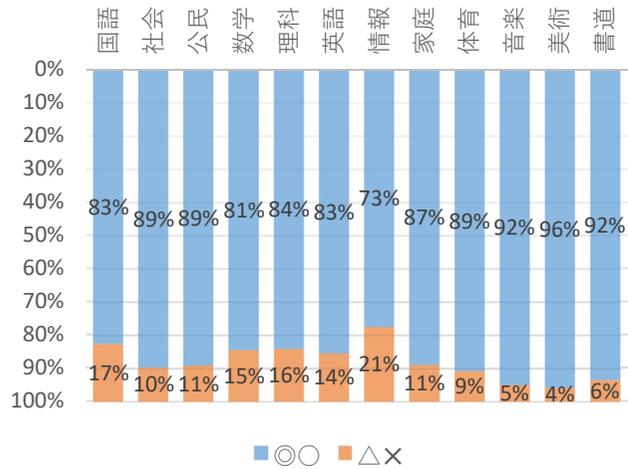
## 高1【理解】



## 高2【理解】



## 高1【興味】



## 高2【興味】

